

# Bibliophiles

## ビブリアファイルズ No.11(2020年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



### 『元彼の遺言状』 新川 帆立

第19回『このミステリーがすごい!』大賞の受賞作です。いわゆる「相続ミステリー」で、主人公は弁護士の剣持麗子で、気が強くお金が大好きという強烈なキャラ。そんな彼女の知り合いの若い男・森川栄治が「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という前代未聞の遺言状を残して死んでしまいます。彼女は、犯人候補に名乗り出た男の代理人として、「犯人選考会」に参加することとなりましたが・・・ちなみに作者は「作家になりたいのだが、取りあえずお金の稼ぎのために」東大法学部を出て弁護士になった女性です。何でも出来る人はうらやましいですね。

### 『別冊カドカワ 西野亮廣』

絵本『えんとつ町のプペル』が大ヒットして、その映画も年末から公開されて絶好調の西野氏。この本は、元吉本興業の芸人にして作家・映画監督・実業家とマルチに活躍する彼の魅力に迫る1冊です。前半が「現代の革命家」としての西野氏の素顔をさまざまな人のインタビュー等を通じて描き出し、後半は映画『えんとつ町』の舞台裏に読者を誘います。貴重なアニメのメイキング画像もカラーで見られますよ。

### 『ドローダウンー 地球温暖化を逆転させる100の方法』

ポール・ホーケン、江守 正多他  
地球温暖化を食い止めることは、もはや世界的に「待ったなし」の状況なのはみなさんご存知ですよね。では、その温暖化を抑止する方法を、みなさんはいくつ言えますか? 太陽エネルギー、風力、地熱、電気自動車・・・10も言えたら多いほうですかね。この話題の本は、あるアメリカの環境保護活動家が非常に多くの温暖化抑止方法をまとめたものです。「水素ホウ素核融合」といった先端科学も紹介されていますが、私たちになじみ深い「木造建築」にも抑止効果があったり、「女子の教育機会の向上」など、温暖化とどう関係があるのかイメージしにくいものまで、目からウロコが落ちること必定了。

### 『Doraemon 感動する話』

藤子・F・不二雄  
漫画で読む英語版のドラえもんです。本巻は「Touching Stories」、つまり「感動的なお話集」になります。特に、映画の原作にもなった「さようなら、ドラえもん」は胸にジーンときますね。横に原作の日本語も併記していますので、ご心配なく。

### 『夢を叶えるための勉強法』 鈴木光

「東大王」などテレビ出演も多く、その美貌も手伝ってか(?) ファンも少なくない現役東大生の初の著書です。勉強法の本というと、色んなタイプのものがありますが、「みなさんの家庭教師になったつもりでこの本を書きました」という作者の言葉通り、分り易くてすぐ横に作者がいて話しかけてくれるような親しみやすさがあります。紹介されている勉強法はオーソドックスですが、確実に実行すればきっと成績アップするかと思います。

### 『推し、燃ゆ』 宇佐見りん

20歳という史上3番目の若さで作者が芥川賞を受賞したことも話題の小説です。若い作家らしく、テーマもまさに現代風の「推し」。「評価したいもの・応援したい人」のことなどを指す、元々はオタクなイメージの言葉でしたが、今では一般的に使われる言葉となりました。主人公には「推し」のアイドルがいましたが、ある時、彼がファンを殴ってしまい、「炎上」してしまいます・・・



### 『夏への扉』

ロバート・A・ハインライン  
残念ながらコロナの影響で2/19の公開が延期になってしまった、山崎賢人主演の映画の原作本です。「タイムトラベルSF」の古典的名作として全SFのベストにもよく選ばれていますので、この機会にこの本でも読んで映画の公開を気長に待ちましょう!

### 『家族だから愛したんじゃないなくて、愛したのが家族だった』 岸田 奈美

筆者は会社勤めをしながらサイト「note」に障害のある母親や弟への愛情あふれるエッセイを書きつづったところ、大きな反響を呼び、この本にまとめられました。ちなみに作者は、経済誌「Forbes」が選出する、世界を変える30歳未満の変革者のアワード「30 UNDER 30 JAPAN」を受賞しています。

### 『ダーリンの進化論』 高嶋 ちさ子

TVでもお馴染みのヴァイオリニスト・高嶋ちさ子が初めて本で語る高嶋家の家族の物語です。「高嶋家には将来絶対にNHKの朝ドラにしてもらいたいぐらいの、面白くて、泣けて、教育的な題材が詰まっているんです。」(本書より)高嶋家の個性的な面々が繰り広げるお話に、これ以上の説明は要りません。ぜひこの本を読んで笑いころげ、人間味のあふれるお話に何かを感じ取ってください。

### 今号のひとこと

L'homme est condamné à être libre.  
人間は、「自由である」という名の刑罰を受けている。

『実存主義とは何か』  
ジャン＝ポール・サルトル(1905-1980)

子どもから大人に成長していくこと。それは良い面では、どんどん「自由」が増えていくことです。でも「自由」には「責任」が必ずセットで付いてきます。子どもの頃は自由が制限されますが、何か悪さをして、最終的には親の責任でした。でも大人になると、行動が自由になると引き換えに、人生の全てにおいて自分が責任を持たなくてはなりません。自由とは軽いものじゃなく重いんです。自由のそんな重みを「刑罰」と表現した名言ですね。

ちなみに、サルトルは「みずからの意志でノーベル賞を辞退した」、現在までのところ二人のうちの一人です。